

軍艦島など産業施設 世界遺産に



世界文化遺産登録が決定した産業革命遺産の構成資産の一つ端島炭坑（軍艦島）＝長崎市高島町

長崎新聞



県産紙宣言。

発行所
長崎新聞社
〒852-8601
長崎市茂里町3-1

号外



スマホ
携帯
QRコード

ドイツ・ボンで開かれている国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産委員会は5日、日本政府が推薦した「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」（本県など8県の23施設）を世界文化遺産に登録することを決めた。西洋で始まった産業革命が非西洋世界への伝播（でんぱ）に初めて成功し、日本の重工業が幕末から明治期にかけて急速に発展した意義を高く評価した。

産業革命遺産は、三菱重工長崎造船所（長崎市）や新日鉄住金八幡製鉄所（北九州市）などで稼働中のドックやクレーン、工場などを含む。民間の稼働資産を官民一体で保全する新たな枠組みを提

示するなど、政府主導で資産の保護に取り組む熱意も認められた。

文化や歴史的背景が共通する複数の遺産を一括して登録した世界遺産は「シリアル・ノミネーション」と呼ばれ、資産が広域に広がる本格的なシリアル・ノミネーションは国内初となる。江戸時代を通じて西洋の科学技術を取り入れる唯一の窓口だった長崎市には、軍艦島の名で知られる「端島炭坑」や、長崎造船所の「ジャイアント・カンチレバークレーン」など最多の8施設が集中する。

世界文化遺産は国内15件目で、九州では初めて。自然遺産を含めた世界遺産全体では19件目。政府は来年の世界遺産委で「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」（本県と熊本県の14資産）の登録を目指す。